

国立病院機構研修の「重症心身障害児者・神経難病・筋ジストロフィー」について

中川 誠[†] 奥田 聡 棚瀬 智美 第77回国立病院総合医学会
嵯峨 守人 水野 準也 伊藤 剛* 2023年10月20日 於 広島

IRYO Vol. 78 No. 6 (361–365) 2024

要旨

今回のリハビリテーションシンポジウムのテーマである「セーフティネット医療分野におけるリハビリテーションの未来について」において、教育分野の視点から、国立病院機構（National Hospital Organization）本部主催研修の目的、変遷、教育の課題と今後の取り組みについて報告する。本研修の目的は、政策医療疾患に対する医療の質の向上および均てん化、指導者育成、専門的知識・技術の習得、Evidence Based Medicine の構築、プログラムの標準化となっている。研修の変遷では、研修タイトルおよび内容の違いに合わせて3期に分類し、各期の特徴を整理した。また、受講生へのアンケートをもとに研修結果の一部とした。セーフティネット分野での研修は、多職種との連携が不可欠なことから一貫して合同研修の形式をとってきたこと、グループディスカッションを必修として支援の在り方を検討してきたこと、また、平成26年には「重症心身障害児者用リハビリテーション評価表」がまとめられ配布に至ったことは特筆したい。現在は、eラーニングで医師による各疾患の病態・治療の講義、各療法士による患者評価と治療の講義、グループディスカッションを柱に実施されている。課題として、施設間の役割の違い、卒前教育、診療ガイドライン・EBMの不足、チーム医療の難しさなどがあげられる。今後は、オンライン講習、eラーニングの充実、セーフティネット分野における実地研修ができる施設および専門療法士の認定、指導者の育成が必要であり、並行してNHOのスケールメリットを活かしたセーフティネット分野における疫学的調査、EBMの発信が望まれる。

キーワード セーフティネット、研修、教育

研修の経緯

昭和59年前後に重症心身障害児（者）（重心）の研修（全国より参加）が下志津病院で開催、筋ジスト

ロフィー（筋ジス）のリハに関する研修会（厚生省筋ジス班会議主催のワークショップでリハビリテーションをテーマにしたもの）などが実施されていた記載がある。平成20年に、政策医療におけるセーフ

国立病院機構東名古屋病院附属リハビリテーション学院

*国立病院機構豊橋医療センター リハビリテーション科 †理学療法士

著者連絡先：中川 誠 NHO東名古屋病院附属リハビリテーション学院

〒465-8620 愛知県名古屋市名東区梅森坂五丁目101

e-mail：312-Rihagaku_shuji@mail.hosp.go.jp

(2024年3月14日受付 2024年4月19日受理)

National Hospital Organization Rehabilitation Training for Severe Intellectual and Multiple Disabilities, Intractable Neurological Diseases, and Muscular Dystrophy

Makoto Nakagawa, Satoshi Okuda, Tanase Tomomi, Saga Morihito, Mizuno Junya, and Ito Takeshi*

School of Physical Therapy & Occupational Therapy in NHO Higashinagoya National Hospital, *NHO Toyohashi Medical Center

(Received Mar. 14, 2024, Accepted Apr. 19, 2024)

Key Words：safety net, training, education